

## N700車体強化で 勝てるか？ 勝てば リニア も売れるはずだが

中国国家主席が米国を訪れ、その過程で大型の商談を成立させたと言われてい  
ます。これは、両国の経済的基盤の「不安定さ」を意味すると同時にその乗り切  
りを、どちらの国が主導するかの駆け引きにみえまました。駆け引きは、GDP  
(国内で新たに生産された物やサービスの付加価値の合計額だそうです) 世界2位を達成した中国の主導で  
進んだ様にみえました。この駆け引きが、今後のJ R 東海にも関わってきます。

商談では、自動車部品や農業、機械、科学などに及び米国電機・金融大手と中  
国企業による合弁会社設立など、米国企業による32億ドルの対中出資契約が成  
立し、逆に米国は、航空機200機を含む総額450億ドルの米国製品購入を中  
国から取り付けたとも報道されています。

### 米・中関係とJ R 東海はどのように関係するのか？

マスコミによれば葛西会長は1月7日、米国に売り込んでいる『新幹線「N7  
00I」の車体を、貨物列車などとの衝突にも耐えられるように強化する』こと  
を明らかにしています。これは米中関係の成り行きを見抜いた先見性ありの対応  
だと言えます。しかも、1月中に米国側に「車体の構造強化は可能」と回答する  
「構えだ」とも報道されています。J R 東海が目指すフロリダ高速鉄道は、2月  
までに入札資格審査の受付を開始するようです。

中国に打ち勝ち、新幹線「N700I」の売り込みに成功すれば当然、次は高  
速鉄道の最高峰 リニア の売り込みです。実際、葛西会長は「J R 東海」1月号  
で“高速鉄道の海外展開を強力に推進”として「…東海道新幹線および超伝導リ  
ニア技術をトータルシステムとして輸出するべく取り組んでいます」と紹介して  
います。また米国を目標とした理由と要素として、米国の輸送システム全体の効  
率を高められる可能性があるのではないか。そこにビジネスチャンスがあるの  
ではないか。契約さえ緻密に結べば法的にその内容が守られる国、としています。

J R 東海が中国新幹線に負けられない事情が有るのなら、その 構え がより具  
体的に「J R 東海」2月号を通して私たち社員に示されることを期待しましょう。

でも 皆さん そのツケが 私たち社員や家族に転嫁さ  
れないよう 駄目は ダメ とシッカリ言いましょう